

黒大豆植え付け 地域交流に一役

丹波篠山 西紀南小児童が挑戦

独特の甘みとこくが特長の黒大豆「丹波黒」が、丹波地域で植え付けの季節を迎えている。各地で農家が地元住民や外国人、小学生を招いて作業を進め、高い知名度を誇る特産品は地域交流にも一役買っている。

2022年6月28日

神戸新聞



黒大豆の苗を植え付ける
西紀南小学校の3年生たち
ちい丹波篠山市川北

県によると、丹波地域で古くから栽培されており、2021年2月には「丹波篠山の黒大豆栽培」が「日本農業遺産」に選ばれた。10月上旬に販売される枝豆は全国的に人気だ。丹波篠山市川北にある黒大豆の地域特産物マイスターさん(83)の畑では21日、近くの西紀南小学校の3年生16人が苗の定植を体験。学校でトレーにまいた種から育てた苗を手に取り、スコップなどで丁寧に植えていった。篠山東雲高校で農業を学ぶ高校3年生4人も手伝った。

作業後には、さんから枝豆が振る舞われた。君(8)は「粒が大きくて甘かった。(農作業を)高校生のお兄さんが優しく教えてくれた」。児童たちは季節ごとに、花の観察や収穫にも取り組むという。